

## 2007年度 卒業論文講評

2008年2月 小関 隆志

### 菊嶋容子 「フィリピンのストリートチルドレンについて」

日本では今、路上生活者やホームレスの問題が取りざたされていますが、ストリートチルドレンというのはほとんど見かけません。身近に見聞きできない社会問題に対しては、なかなか想像力が働きにくいものですね。

菊嶋さんはスタディツアーでフィリピンを訪れ、数多くのストリートチルドレンを見かけて、ショックを受けたそうです。この時のショックが卒業論文につながったわけですが、やはりこうした原体験が、論文を書く上で強い動機になることは、とても良いことだと思います。文献を読んで得た知識も重要ですが、それだけでは動機として弱いからです。

この論文の良いところは、問題の原因と対策を調べて、きちんと分析しているところです。ストリートチルドレンはかわいそうだね、というだけではなく、ストリートチルドレンが生まれる背景として何があるのかを考え、特にスラム問題に着目しています。また、現在どの組織がどのような対策を行っているのかも調べて、ユニセフや地方自治体など、幅広く目配りをしているのも、とても良い点だと思います。

菊嶋さんはせっかく現地を訪れ、ストリートチルドレンを支援するNPOとも接触したのですから、文献上の情報だけでなく、そうした支援団体の活動について自分自身の体験から語れると、もっと迫力があつたでしょう。

論文の執筆を機会に、今後もぜひ関心を持ち続けてもらいたいと思います。